



宮城県中学校長会

会 報

平成26年度 宮城県中学校長会 第65回総会開催される

総 会 概 略

前日までの真夏を感じさせる猛暑から解放された6月3日、青葉繁る杜の都ホテル白萩を会場に新会員26名を含めた総勢139名が一堂に会し、第65回宮城県中学校長会総会が盛会に開催されました。菅原義明会長の挨拶に続き、宮城県教育委員会教育長高橋仁様よりご祝辞をいただきました。その中で、5年目を迎えた志教育の一層の充実など、県の考える5つの重点項目についてお話がありました。

続いて今回退職された23名を代表して前会長有見正敏様に感謝状と記念品が贈られ、引き続きご挨拶をいただきました。「平成25年度は忘れられない年となった。昨年県校長会の意見を県教委に要望として出し、ご理解いただき取り入れていただけたことに感謝している。大震災から3年3か月経つが、県校長会として情報を共有し、強い信念で対応してほしい」とエールをいただきました。

その後、前年度と今年度の事業及び会計について、報告と承認をいただき、「東日本大震災による被災からの再生を第一義に」した宣言、そして決議を行い閉会しました。午後は研修会として、「宮城の学校教育」について、宮城県教育庁各課より行政説明をいただきました。



あいさつ

宮城県中学校長会
会 長

菅 原 義 明

木々の緑が初夏の陽射しに輝きを増す季節となりました。本日、公務ご多用の折り、宮城県教育委員会教育長 高橋仁 様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、第65回宮城県中学校長会総会を開催できますこと、会員一同心より感謝申し上げます。

はじめに、この3月をもちましてご勇退されました23名の先生方におかれましては、長年にわたり本県教育の充実・発展にご尽力なされ、また我々後進をご指導いただきましたことに敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。今後



ともご健勝でご活躍され、宮城県中学校長会への変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



また、25名の情熱あふれる新会員をお迎えいたしました。心より歓迎いたします。これから、学校経営のリーダーとしてご活躍されますよう、併せて、本会の充実発展にも存分にお力を発揮されますよう期待しております。

本会の昨年度を振り返ってみますと、校長先生方の叡智と行動力を結集し、各学校における学習指導要領の確実な実施、入試制度への適切な対応、東日本大震災による被災校に関する情報発信と支援体制整備等、様々な課題解決に向け取り組み、成果を上げてきました。中でも大きな成果は、松島町を会場に行われた第63回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会が成功裏に終了したことです。校長先生方のご尽力により、トラブルもなく順調に会が運営できたことはもちろん最大の成果ですが、私はそれに加え3つの大きな収穫があったと評価しております。第一は震災後、力強く歩んでいる本県教育の姿を東北各地に向けて十分に発信できたこと、第二は「東北はひとつ」の合い言葉のもと、全東北の中学校長があらためて様々な思いや価値観を共有できたこと、そして第三は



宮城県中学校長会と仙台市中学校長会の連携協力体制が確実に機能できたことであります。これらの成果は、今後、様々な場面に引き継がれ、また平成28年10月に開催が決まっている全日本中学校長会研究協議会宮城大会の準備・運営に向け、大きな財産になると信じて疑いません。新会員を含め県内全ての中学校の校長先生方がこれらの成果を自覚し、誇り高く胸に刻むべきことと自負しております。

今年度は、これらの成果を踏まえるとともに、昨年3月に改訂され、より現実的な内容となった「全日中教育ビジョン 学校からの教育改革（改訂版）」の趣旨を受け、後ほどご提案する活動方針の中でも、以下3点について重点的に取り組みたいと考えております。



1点目は学習指導要領に基づく教育課程の一層の充実です。完全実施初年度には、太宰会長が「円滑な実施」を訴え、また2年目には有見会長が「着実な推進」を呼び掛けました。各学校ではこれらの要請に応え、円滑かつ順調に教育課程を実施してきたところですが、3年目を迎える今年度は、2年間の実践を踏まえ、趣旨の自校化を図りながら授業改善や研究に取り組んでいけるよう、校長会としての働き掛けを行ってまいりたいと考えております。

2点目は積極的生徒指導の推進です。東日本大震災から3年が経過し、ご承知の通り、宮城県をはじめ各自治体のカレンダーも、復旧・復興期から再生期へと移行しました。その中で、いまだ苦しみや悲しみを抱え、また様々な事情から前を向けない子どもたちがいることも事実です。コント

ロールできない感情が生徒指導上の問題に結びついているケースがあるやにも聞いております。我々校長は、今、教育の専門家として、復旧・再生の全体像を把握しながら、個々の事案に適切に対応していくことが求められています。各学校で制定した「学校いじめ防止基本方針」の効果的運用とも併せ、研修会や関係機関との協議を通じ啓発を図っていく所存です。



3点目は、今述べたことと重複する部分もありますが、東日本大震災での被災への適切な対応です。これは、被災校等からの情報収集や発信、体制整備ということに加え、各学校における防災教育の充実、そして安全・安心な教育環境づくりの推進など、総合的な取組のいっそうの充実ということでもあります。

校長会として、各学校の実情に応じた具体的支援はもとより、県内全体の教育の確実な再生に向け、しっかりとした足取りでの前進を促して参りたいと考えております。過日行われました全日本中学校長会総会において、平成26年度の活動方針の中に「被災地における学校の支援・援助及び



全国8地区内の学校間の連携による防災教育の充実」という1項が引き続いて入れられ、採択されました。義援金口座も1年延長され、継続的な支援をいただいております。宮城県中学校長会としては、宮城県教育振興基本計画に則り、「家庭・地域と連携した創意と活力に満ちた学校づくり」を推進し、確かな成果として発信していくことで、全国の校長先生方の熱いエールに応えていく責任があります。さらに、2年後に迫った全日本中学校長会研究協議会宮城大会、また「宮城の中学校70年」記念事業の実施に向け、実質的な企画・準備も始まりました。加えて、仙台市中学校長会との初の分離開催となる宮城県中学校長会研究協議会が、大河原地区で開催されます。このような意味で、本年度は今後を占う大切な年でもあります。今、我々校長は、自覚と責任を新たにして着実に地歩を固めるとともに、大きな一步を踏み出すときであることを、全ての会員に強く訴えたいと思います。



結びに、宮城県教育委員会並びに各市町村教育委員会のご指導をいただき、併せて仙台市中学校長会、関係諸機関と連携・協力しながら、会員相互が研鑽を深め、リーダーとして学校運営に邁進することを祈念し、開会の挨拶といたします。



祝 辞

宮城県教育委員会
教育長

高 橋 仁 様

皆さんおはようございます。県教育委員会の高橋でございます。開会にあたりまして一言お祝いを述べさせていただきます。

本日、県内中学校の校長先生方が一堂に会し、平成26年度の総会が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。各校長先生方、そして中学校長会におかれましては、大震災以降、生徒及び教職員の安全確保や心のケア、学びの環境づくりなど宮城の教育復興のために先頭に立って御尽力頂いておりますことに、改めて心より感謝申し上げます。

これまで大学や地域による教育支援、新しいスタイルの指導主事訪問など、昨年度までの復旧期の3年間に撒かれた教育の成長の種が芽を出してきておりますが、今年度は県が定めた震災復興計画の再生期の初年度になりますが、これからの再生期の4年間は、成長の芽を大きく伸ばすとともに、子どもたちの目線に立ちながら学習環境の整備や学力・体力の向上、特別支援教育の充実など、ひとつひとつの課題を着実に解決していくことが求められております。

特に、大震災から3年を経過した今、もっとも心配されるのが子どもたちの心のケアであります。復旧が進んできたとはいえ、まだまだ厳しい生活環境・学習環境が続く中、不登校や暴力行為等も増加傾向にあります。今後も子どもたちを取り巻く厳しい環境が続くことを考えますと、今年が、そして今年からが正念場であると考えております。

県教育委員会といたしましても、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の手厚い配置を行うなど、相談支援体制を充実させて参

りたいと考えておりますが、各学校でも子どもたちの心のケアについて一層の危機感を持って指導、そして支援をよろしくお願い申し上げます。あわせて、いじめ問題への対応についても早期発見と早期対応を引き続きよろしくお願い申し上げます。

その上で、この機会に私から5点、お願いを申し上げます。

1つ目は、志教育の一層の推進についてであります。

今年度で5年目を迎えましたこの志教育は、東日本大震災を乗り越え、宮城を支える人づくりに向けた柱となるものであります。これまで推進地区の各学校を中心に、特色ある取組が数多く実践され、志教育の意義や重要性について理解が深まってきております。今年度も推進地区として指定されている7地区において、各学校の校種ごとに、あるいは校種を越えて、さらに実効性のある実践が展開されるものと期待しているところであります。県内のそれぞれの中学校で、実情に合わせた志教育が一層充実していくことを願っております。

2つ目は、学力の向上についてであります。

県教育委員会では、子どもたちの学力向上を最重要課題として継続的に取り組んできているところではありますが、今年度新たに県独自の学力学習状況調査を、仙台市を除く県内の小5・中2を対象として悉皆で実施することとなりました。この調査は、本県小中学校児童生徒における学習内容の定着状況と、学習意識、および各学校の学習にかかる取組・意識等を調査し、各学校におけるPDCAサイクルの構築に資することを目的として行われるものであります。校長先生方には、この学習状況調査の目的や円滑な実施について御理解頂くとともに、調査結果を日々の学習に生かしていけるよう先生方への指導・助言に御協力をよろしくお願い致します。

3点目は、ただいま申し上げました志教育と学力向上にも繋がるものと考えております、高校入試についてであります。

高校入試については、新制度による2回目の実施を終えたところでありますが、入学者選抜審議会による検証でも一定の評価を頂くなど、制度が円滑に導入されてきたと考えております。中学校の御協力に心から感謝を申し上げます。これまでの2回の実施状況及び校長をはじめ各方面からの御意見、そして審議会からの提言を踏まえまして、現在の中学3年生が対象となる来年春の入学者選抜については、前期選抜の募集割合を引き上げたところであります。今後、各高校ごとに具体的な募集割合を定め、7月に発表される組織編制計画に合わせて入学者選抜一覧の中で公表することとしておりますのでよろしくお願いを申し上げます。

4つ目は、防災教育の充実についてであります。

各学校では、みやぎ学校安全基本指針を基に、学校の実情に応じた防災マニュアルの作成や、地域と連携した避難訓練の実施など、防災体制の点検強化を図って頂いているところであります。地域とともに毎年改善を加えながら、防災主任を中心として生徒の安全と命を守る防災教育の一層の推進をよろしくお願い致します。

最後5つ目は、健康な体と体力の向上についてであります。

本県の生徒の体力・運動能力は、全国平均に比べますと多くの種目で下回っている現状であります。運動環境に制限のある学校も多い中ではありますが、これも学校の実情に応じて、健康教育や体育活動、そして部活動の充実に向けた取組を進めて頂きますようよろしくお願いを申し上げます。

中学校は、子どもたちの人生に大変大きな影響を与える3年間あります。その中学校生活の指導のトップである校長先生方の職務は大変な重責であります。どうか健康にご留意頂きまして、将来の宮城を担う子どもたちの健やかな成長のため、これからも御尽力を頂きますことを御期待申し上げます。結びに宮城県中学校長会の一層の御発展を祈念し御祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

////////// 新任 抱負 //////////

私の目指す学校

角田市立金津中学校長

伊 藤 浩

四方を山に囲まれた角田盆地の東端に金津中学校はあります。1学年1学級、103名の生徒と11名の職員の学校です。

3年ぶりに学校に戻った私は、生徒と職員の毎日の姿を見るうちに、これまで忘れかけていた温もりが徐々に戻ってくるのを感じています。生徒の心と身体と学びを守り、発達課題をクリアさせながらよりよく成長させたいと考えたら当然ながら責任の重さを感じます。

私の目指す学校は、生徒に安心感、所属感、承認感、有用感を与える学校です。これがなければ、学校生活への意欲も学力の向上もなく、不登校やいじめを生まない学校は創れないと考えるからです。

自分はこれまで指導という言葉を使いながら、生徒を支配しようとしてきたのではないか。困難な生徒指導の問題に明け暮れた経験からやっと見つけ出したのがこの答えです。

そうした学校を創るために職員には7つのことを話し、今実践し始めたところです。

- ・生徒にプライドをもたせて
- ・勇気付けの言葉をかけて
- ・生徒指導と授業は一体のことと心して
- ・授業や活動のねらいを一言で言って
- ・一場面一笑顔で接して
- ・保護者とよりよい関係をつくって
- ・研修を重ねて

これから先の困難な場面にもこれを基本に前向きに取り組んでいこうと思っています。

今改めて被災地での勤務を振り返ると、3年間様々なことに翻弄され、自分の意志をもつことができなかつたように思います。

しかし、今もなお、難しい課題を突き付けられる中で、懇切丁寧に、あきらめず、投げ出さず対応している人たちがいることを知っていますし、尊敬もしています。

そうした人たちの心身の健康を願いながら、遠く離れた角田の地で頑張っていこうと気持ちを新たにしているところです。

//////////////////////////////////// 新任 抱 負 //////////////////////////////////////

四月 宮の桃

蔵王町立宮中学校長

今 野 克 也

4月1日、自治会館で辞令をいただき、いよいよ宮中学校へ。蔵王町に入ると運転している車から、あちらこちらに白い花を付けた梅林を眺めることができました。校門をくぐり、車を降り、玄関に向かうと、教職員と20名ほどの生徒が迎えてくれました。元気なあいさつと校歌を披露してくれました。異動が発表されてからの不安が、スーッと消え、この生徒たちのためによい学校を創っていかねばと決意を新たにしました。

新年度・新学期、校庭の満開の桜の下、始業式と入学式を無事に終えることができ、校長として一つの仕事をやり終えた安堵感、そして、全校生徒との出会い、来賓としてお出でいただいた地域の方々との出会い、分からないことからくる不安もなくなりました。

校歌の中に「ああはなやかな 宮の桃・・・」という歌詞があるように、桜の花が終わると、宮地区は桃の花の季節です。学校にはもちろん、学校周辺をあちらこちらで濃いピンクの花を付けた桃木の群落を目にすることができます。桃の花に誘われて始めた朝の校門でのあいさつ、始めたからには、最後までと思っています。

今年の春は、梅・桜・桃の花と地域のすばらしさを目にしましたが、本校には、3年間を通して、地域の人たちと関わって地域のよさを学び、サービラーニングに結びつけるなど地域に関する学習が計画されています。“調べ学習”“農業体験”“志を語る会”“修学旅行での地場製品のPRプロジェクト学習”等の大切な活動があり、深化・発展させていけたらと考えています。

2014年の春、久しぶりに緊張感と不安の日々でしたが、その中で感じたことや考えたことは貴重な体験になりました。校長としての自分自身の成長の糧にしていければと考えています。

「学校でしか」

大河原町立金ヶ瀬中学校長

佐々木 敦 子

本校は各学年単学級の小規模校である。部活動の数は、6つ。部員数に補欠の余裕はない。

6月3日 1校時、体育館、熱く戦った郡中総体の報告会が行われた。3年生の部長たちの報告がいい。原稿を見ないで話せる思いの強さがある。「3回戦に1死満塁のピンチがありましたが、ホームでアウトにして凌ぎました。決勝戦では4点リードされましたが、2点返して食い下がりました。2日間で4試合は正直、きつかったです。でも、みんなで声を掛け合ってがんばりました。」「残念ながら3位に終わってしまいました。」「1・2年生にはこんな悔しい思いをしないようにしっかり練習してほしいと思います。」「少ない人数なのにいい試合ができたのは、後輩の応援のおかげです。下級生にありがとうと言いたいです。」「ここまで部活を続けてこれたのは、親や先生のおかげだと思っています。みんなに支えてもらっていたことに気がきました。」「日差しが強くて大変でしたが、精いっぱい応援をしました。プレーしている選手はもっと大変だと思って力いっぱい吹きました。」「

子どもたちは、大会の2日間でいいものを学んだ。自分ががんばれる力に気づき、仲間を思い、家族に感謝し、教員にも感謝の気持ちをもてるようになった、今までの練習を振り返ることができるほどぐっと大人になった。報告を聞くチームメイト、後輩たち、教員も胸が熱くなった朝だった。

中学生とはなんとまぶしいものか。勢いのある子どもたち、伸びようとする生徒たちと共にいることを幸せと思う。

学校には、今、この子どもたちの姿を保護者にも見せたい、一緒にこの空気を味わってもらえたら、と思う瞬間がある。こんな光るひと時があるのだ。学校でしかできないことがある。

新任校長として3ヶ月目、やっと、学びの集団、磨きの集団としての学校、その目指す姿をはっきりした言葉で示せそうな気がしている。

//////////////////// 新任 抱 負 //////////////////////////////////////

琴線に触れるあいさつ

村田町立村田第一中学校長

高 橋 長 浩

校長としての2ヶ月あまり、多くの出張や研修会に出席させていただきました。S中学校での教頭時代、T校長は県の校長会長という重責にあり、2日間続けて学校にいることなど無かったことを思えば諦めもつくのですが、インプットばかりで、既に私の脳はオーバーフローしています。

ある研修会で県教委のK課長が作成した「子どもとの出会い～縁～」というテーマのビデオを観ました。わずか5分足らずのBGMと文字だけの映像であり、コメントもありませんでしたが、私の琴線に触れてしまいました。K課長から了解も得ず、パワーポイントに焼き直し、職員会議の冒頭に流しました。4分間のビデオと1分間の沈黙は、職員会議の雰囲気を変えました。

次の日、事務の先生から「校長先生、あれは泣きましたよ」との声を聞き、私はニヤリとほくそ笑みました。後日、同じ研修を受けた先生3人にそのことを話したところ、うち2人の先生も職員会議で使ったと話していました。聴く人の心に残る話を構成するのは、とても難儀なことです。しかし、自分が感動したことを他の人にも伝えたいと考えるのは教師の性分なのでしょう。

思えば、この2ヶ月間、生徒や保護者、そして職員の前で何本の挨拶を行ってきたことでしょう。既にネタ切れ状態で、この文章も苦肉の策であることは察知のとおりです。しかし、せっかくの機会をいただいたのだから、聴く人や読む人の心に残る言葉を残したい。できれば琴線に触れるような言葉を、と考えるのですが…。最近言葉よりパフォーマンスについて走ってしまうこともあります。つい先日、中総体の壮行式で、校長自ら「フレー、フレー、一中」とやりました。正直なところ、過去にR中学校でY校長がやったことの物真似なのですが、次回からどうしようと悩みはつきないところです。何年か先に、今回の私のパフォーマンスに居合わせた村田一中の先生か生徒が、壮行式の挨拶で「フレー、フレー。〇〇中」とやったことを嗅ぎつけた時、私は墓場の陰で、ニヤリとほくそ笑んでいるに違いありません。

「校長先生、来てくれたよ。」

柴田町立船迫中学校長

遠 山 勝 治

JR船岡駅を2階まで上り、北側の階段を下りると、そこには悠然と流れる白石川があり、その川堤には一目千本桜で有名な桜並木が規則正しく立ち並んでいます。堤防からは、雪を山頂に残した蔵王連峰の不動の勇姿が眺望できます。船岡駅から私が通う船迫中学校まで、徒歩で約20分。徒歩や自転車で通学する生徒達と挨拶を交わしながら毎日通勤しています。

着任早々から、いじめ問題や不登校等、様々な生徒指導上の問題が浮上し、その問題解決に追われていた頃、放課後の部活動の練習にいつもと違う生徒達の姿を目の当たりにしました。大きな声を掛け合い、エネルギーに走り回る生徒達の姿はとても清々しく逞しさを表出していました。校庭や体育館、武道館、どこに行ってもいい加減な活動はなく、それぞれの目標達成に向けて生徒達は必死に練習に励んでいました。今回の柴田郡中総体でも、全校生徒210名という、さほど大きくない学校規模にもかかわらず、団体・個人ともに数々の優秀な成績を残し、その最後まであきらめず、仲間と助け合いながらの戦いぶりは多くの保護者の感動の涙を集めていました。

着任から2か月して、ようやく本校生徒の本来の姿が少し垣間見えてきた気がします。これまで多面的・多角的に生徒を理解しようと努めていたにもかかわらず、ここまで時間がかかったことがとても悔しく、そして恥ずかしくなりました。どこの大会会場でも「校長先生、来てくれたよ。」と言ってくれる生徒達や保護者の方々を決して裏切らないように職責を全うしようと誓いを新たにしました。

本校にはとても素晴らしい教職員が揃っています。学校の周りにラベンダーの花を毎年植え続けたり、校庭の周りの草刈りを何年も続けている地域の方々があります。学校で何が起こっても蔵王連峰のようにどっしりと青山不動の姿勢で生徒達を見守り、教職員や保護者、そして地域の方々と力を合わせながら、一人一人の生徒に将来を力強く生き抜く力を身に付けさせたいと思っています。

//////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////

誇りとされる学校に

川崎町立富岡中学校長

佐藤 修 司

「どこの学校ですか。」と尋ねられ「富岡中学校です。」と答えるとすぐに「すずらんで有名な学校ですね。」とよく言われる。

この学校へ勤務して、2ヶ月が過ぎ、3ヶ月目に入っている。つくづく良い学校、良い地域に来たと感じている。私が若い頃、先輩の先生から転勤する時「おまえがその学校に必要だからいるんだ」と言われた。

私は、ここに来て本当に良かったと思っている。その理由として3点ある。

1点目は、子どもたちの素晴らしさである。素直で、何事にも一生懸命取り組み、自分の意見をしっかりとっている。

2点目は、保護者・地域の方々の素晴らしさがある。心温まる支援、協力を日頃からいただいている。

3点目は、富岡中学校チーム一丸となったスタッフの素晴らしさがある。

このようなすばらしい環境の下、学校経営を実践できることは、本当にうれしい限りである。これも諸先輩の校長先生方が今まで築き上げてきた成果と感じている。

第1回目の職員会議で「生徒・保護者・地域から誇りとされる学校にしましょう」と職員に話した。

私は、学校経営をする上で校長には、先見力、実践力、判断力の3つの力が必要であると考えている。校長は、何をやるにしてもしっかりと前を見据えた計画を立て、子どもたちにどんな力を付けたいのかを明確にし、学校運営していかなければならないと思っている。それゆえに我が校が大事にしている「すずらんの心」を意識し、チーム富岡のリーダーとして、より一層、学校と家庭、地域の方々との連携を密にしていき地域から誇りとされる学校を目指していきたい。

※「すずらんの心」とは、思いやり、助け合い、奉仕、感謝、自然愛である。

笑顔と笑いと鋭い視線

塩竈市立第三中学校長

中嶋 亨

本校の校長室は、職員室に隣接しています。私の机は窓際に置かれ、座った2メートル先の前方には職員室への出入口があります。そのためか、職員室の雰囲気の手取るようになります。引継に来たときも、赴任した日にも「笑い声」が扉の向こうから漏れてきました。その時、私はいい雰囲気の学校に来たなという感想を持ちました。休憩時間や昼休みなど、職員室は「笑顔」と「笑い声」がいつも見られる職場です。さらに驚いたことには、様々な場面で、後輩を育てようとする声も聞かれる職場となっているのです。それが、自然と職員室の中で行われていることに、先生方の素晴らしさ、職員のチームワークの素晴らしさを感じました。そんな雰囲気が好きで、私はよほどのことがない限り、職員室との間の扉を開けておくようにしています。

さて、4月8日に行われた始業式で私は、生徒の「視線の鋭さ」に頬がひきつる思いをしました。2,3年生全員が、誰一人声も出さず、下を見ることもなく私を見つめていたのです。そして翌日に行われた入学式でも、同じような「鋭い視線」を2,3年生は向けてきたのです。ところが残念ながら、新入生はそこまでの鋭さはありませんでした。つまり、この鋭さは本校の先生方が1年間掛け、鍛え育んできた結果だったのです。生徒への指導力も一流であると思い知らされた入学式でした。

塩竈市立第三中学校という名称をもちながら、住所は多賀城市にあるという不思議な立地ではありますが、温かい雰囲気の職員集団と鋭い眼差しをもつ生徒たちに囲まれて、私は校長としてのスタートを切りました。本校の目指す教師像である「生徒と共に伸びる教師」を目指し、指導理念である「鍛え、育む」を常に意識しながら、「優しく、賢く、逞しい」生徒を育てていきたいと考えています。また、塩竈市の教育方針に則り、震災の復興を意識させながら「世界に発信できる生徒の育成」を目指し、日々努力していく決意を強くしたのです。

//////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////

「花が咲き、笑顔があふれ、
歌声が流れる学校」

岩沼市立岩沼北中学校長

樋口 英明

本校は、昭和37年創立した52年の歴史と伝統のある学校です。開校当初は、まわり一面が田園と畑に囲まれた自然環境に恵まれた中に校舎が建築され、生徒数は740名の大規模校としてスタートいたしました。その後、東北本線より西側の地区が分離し、現在の生徒数は275名、2 km以上の自転車通学生も2名という小さな学区となりました。生徒の多くは、学校のまわりに密集して建築されている住宅からであり、学校を取り巻く環境や生徒数は大きく変化してまいりました。

この歴史と伝統のある学校だからこそ、これまで大切にされているものがあると思います。記念誌などで学校の沿革について調べてみますと、目指す学校像として「花が咲き、笑顔があふれ、歌声が流れる学校」が大切にされてきたようです。歴代の校長先生方は、その実現のために、グリーンベルトとよばれる花壇、北中三大行事として子どもが誇りに思いながら取り組んでいる体育祭、文化祭、合唱コンクール、そして生徒会を中心とした挨拶運動など、いろいろな工夫がなされて実施されてきました。

私もこの目指す学校像を継承し発展させていこうと思います。そのためには、「学校は地域に浮かぶ船」のたとえのとおり、地域・保護者に信頼される学校となるよう、キーワードを「交流と連携」として取り組んでいくこと。次に、教職員は子どもたちの自信を育て自己有用感を高め、分かる授業を行うこと。そして、生徒には「凡事徹底」を行い、当たり前が当たり前でできるようにさせていきたいと考えております。

また、これらのことに対して全ての教職員が参画し、主体的に教育活動に取り組めるようにすることが、校長としての一番の課題と実感しております。組織を生かし、主任層を育てていくことを今年度の取組とし、計画的に取り組んでいきたいと思っております。そして、全教職員で「花が咲き、笑顔があふれ、歌声が流れる学校」をつくることのできたと実感できる学校づくりを目指したいと思っております。

海に臨んで

七ヶ浜町立向洋中学校長

櫻井 覚

「東雲の空明けゆきて 大海原に陽は昇る」

「向洋中学校」校歌の頭の歌詞です。なるほど、校長室の窓から東に目をやると、遙か先の瑞々しい木立の間に僅かながら太平洋を覗くことが出来ます。「大海に乗り出す若者の気概を育てる学び舎にふさわしい眺めだなあ。」と感慨に浸って見ていた私は、一人の先生の言葉に大きく動揺することになりました。「あの海は3年前までは見えなかったのですよ。」先生によると、浜を襲った津波が木々をなぎ倒し、学校の目の前まで多くの家を運んで来たそうです。

この出来事は、着任直後の学校経営に2つの注意喚起を付け加えてくれました。

一つは、地域の現実を把握し、地域と共に歩む学校であることを強く自覚したことです。三方を海で囲まれた七ヶ浜町の震災での被害は甚大なものでしたが、「うみ・ひと・まち」という海との関係性を失わない復興・再生の取組が進んでいます。逆境に負けずに町づくりに取り組む町民の皆さんと共に、防災対策や共助の意識形成、未来の郷土を担う覚悟をもつことこそが、本校生徒の責務の一つであると感じました。将来、この町で生活する生徒も多くいるだろうことを考え合わせると、中学時代から地域の中で、「感じ、考え、行動できる」力を身に付けさせたいと思いました。

もう一つ、先入観で海を見た経験は、立ち位置や視点を多様に変えて判断することの大切さを教えてくれました。ビジョンをもって果敢に教育活動を展開していくことも大切ですが、方針の是非や実践の評価を常に行う冷静さや慎重さを失いたくないものです。どのような高邁な理想も、一方通行では実現には程遠いものとなります。ステークホルダーとなる職員、生徒、保護者、地域との目標の共有と円滑な連携が必要となります。私自身が、それぞれの目線から各種の取組を見直したり、私自身がそれぞれとコミュニケーションを積極的に構築したりしていくことこそが、学校経営の修正と改善につながっていくのだと考えています。

//////////////////////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////

十符の菅薦と恕

利府町立利府西中学校校長

佐々木 勉

始業式当日、新たな出会いに期待を膨らませ、学校へ向かっていると、横断歩道を渡るため左右の安全確認をしている制服姿の中学生が目飛び込んできました。車をゆっくり止めると、中学生は小走りに横断歩道を渡り、車の方に向かってお辞儀をし、その姿から感謝の気持ちが伝わってきました。この光景はその後も絶えることはありませんでした。

子どもたちとのすばらしい出会いに胸を躍らせながら校長室に入ると、菅薦（すがこも）に次のような一枚の詩が張って飾ってありました。

「みちのくの 十符の菅薦

七符には 君をねさせて

われ 三符にねむ

夫木和歌抄」

十符（とふ）とは、10の節のことで、菅（すが）という植物で編んだむしろの菅薦を題材にして詠んだということがわかりました。菅は、学区内にある「宮城県民の森」の周辺で過去に栽培が盛んに行われていたようです。「十符の里」と「利府町」のつながりから、地域をしっかり見つめなさいという先輩校長からのメッセージかなと思って毎日眺めています。

さらに、90㎡という広い校長室の席の左壁に「恕」という言葉が無造作に貼り付けてありました。私自身、この言葉の意味を深くとらえたことがなかったので、なぜここにあるのか当初は疑問でした。しかし、調べていくと「恕」とは、相手へのやさしさ、思いやりの心で、孔子がこの世の中を生きていくために最も大切にしなければいけない言葉であるということを知りました。利府西中学校は開校してから14年目の若い学校です。新たな伝統を築き上げていくときに、どのような生徒を育てていくのか、その大きな道しるべとして代々の校長が大切にしてきた言葉だと思っています。

私は、次の世代になう子どもたちの大きな志を育てるため微力ながら全力を尽くしていきたいと思っています。

大衡中の伝統を活かして

大衡村立大衡中学校校長

工藤 成 瑞

着任の日に、応援団生徒と部活動をしていた生徒が玄関前に集まってきて、エールで歓迎してくれました。一般職員の着任から6時間以上が経っていましたが、精一杯大きな声で出迎えてくれた生徒たちの気持を嬉しく思いました。

さて、新任校長としての初仕事が、職員会議での学校経営方針等についての説明でした。その中で、中1ギャップへの配慮について職員に話をし、いろいろとお願いをしました。入学式を終え、1年生の部活動体験が始まり、私も一緒に参加してみることにしました。本校の部活動体験は、1学年2クラスをそれぞれ男女別にし、4グループがローテーションを組んで9つある部活動をすべて体験させる体制をとっています。各部では、上級生が練習の内容や大会の紹介、部のモットーや雰囲気について説明した後、基本練習やゲーム的な要素を取り入れた運動をさせながら、1年生のやる気を引き出し楽しく活動させていました。部活動を定めるまでの過程が丁寧で、生徒に自己決定をさせるための情報を提供している取り組みだなと思い、次の職員会議で、顧問や1学年担当に感謝しました。

5月下旬から、1年生の応援練習が始まり、これも毎日見守りました。当然のことながら初日は声も小さく、手拍子もバラバラでしたが、応援団の上級生が手本を示し、1年生の列に入って優しく教えたことにより、4日目の全校練習では、しっかりした応援に仕上がりました。応援することの意味や価値がよく理解できていない1年生でも、団長を中心に上級生が範を示すことにより、自分たちも努力するようになり、それが中学生としての自覚と自信につながるのだらうと思いました。2週間後の郡陸上大会での応援風景が楽しみです。

新任校長として過ごしたこの2ヶ月は、生徒の伸ばせる資質を見極め、学校の伝統・校風などを知り、本校の良さを実感することができました。歴代校長の諸先輩方が築かれてこられた礎の上に、私なりの工夫で、もう一段積み重ねていきたいと思っています。

//////////////////// 新任 抱 負 //////////////////////////////////////

風は吹けども、山は動ぜず

加美町立宮崎中学校長

稲 田 壽

3年間勤務した蔵王を離れ、また冬の厳しい宮崎の地でお世話になることになりました。「地吹雪がすごい、冬は想像以上に大変だ」と多くの方からご助言をいただきました。

校長室からは、薬菜山、船形山が真正面に見え、山男の私には、とてもうれしい環境です。宮崎の町の大部分は田んぼで、その中に居住地や学校があります。この町のルーツはここにあるのだと感じます。大切にしていきたいと思います。

本校は、平成元年に加美石中学校と宮崎中学校が統合した学校です。今年度は全校生徒124人で、今後も少しずつ生徒数は減少傾向にあるようです。震災の影響は全くといっていいほどありません。あの日以降、日々の教育活動に特に支障をきたしてないと聞きました。

生徒達は、言葉遣いが丁寧で、心のこもった挨拶ができます。当然ながら、服装もきちんとしています。過日、中総体がありました。事前に特設応援団による、1年生対象の応援練習がありました。3年生のリーダーシップの素晴らしさ。顔を紅潮させて、額に汗しながらの心底からの応援は感動しました。それを見た1年生は、当然同じ行動をとります。小さい学校だからできるんだと思う方はたくさんいることでしょう。私はそうは思いません。本校の気質は伝統から培ったものです。仮に生徒が500人いても同じでしょう。諸先輩が作り上げたものは、何年経過しても盤石の体制で受け継がれ、守り続けられております。私が新任校長として、強い責任感を感じた瞬間でした。

「不易と流行」と言う言葉がありますが、宮崎中学校のよき伝統をますます発展させていきたいと思えます。併せて、なかなか見つけられない生徒の個性に目を向け、一人十色と言う視点で、生徒一人一人に目を向け、小さい学校だからこそできること、足で稼ぐ、生徒と共に毎日を過ごす校長でありたいと思えます。今後とも、皆様方のご指導、ご支援をよろしく願いいたします。

大切な財産

涌谷町立篁岳中学校長

鈴木 研 一

東には田園地帯、西には篁岳山の自然美豊かな篁岳中学校に赴任して、もうすでに2ヶ月が過ぎました。62名の生徒たちと共に充実した日々を送っております。

本校の校舎屋上には「心に笑顔を」「胸に勇気を」「未来に夢を」という看板が目飛び込んできます。これは平成9年度に当時の生徒の手により作成され、現在も篁岳中学校の合い言葉として引き継がれているものです。

また、正面玄関前には「啐啄同時」の文字が刻まれた記念碑が建立されております。

これは、理想の教育（家庭教育・学校教育）とは、親と教師と子どもが機を得て相応ずる「啐啄同時」（「啐啄同期」とも言うそうです）の教育であると言われております。「啐」とは鳥のひながかえろうとする時、ひなが殻の内側から、つつくことであり、「啄」とは、親鳥が外から殻をつついて殻を壊してあげることであり、この両者が機を一にして行われることから「啐啄同時」と言われているようです。

ひなが殻をたたいても親鳥が気づかないでいると、ひなは死んでしまうことになり、ひながたたく前に親鳥が殻を破ると正常に育たないということがあるみたいで、つまり、親や教師が普段、子どもに理解を深め、子どものニーズやサインにいち早く気づき、適切な対応や支援を行うことが大切であるという考え方です。時代は変われども大切なものは基本的には変わっていないという意味にも捉えられる感がいたします。

学校と保護者、そして篁岳地域の方々との関係が正に「啐啄同時」のような関係であるように感じております。

本校は今年度、68年の長きに亘る歴史に幕を閉じ、閉校となります。この間、地域からいただきました数多くの支援は本校教育の大きな財産となっております。閉校までの残された日々を学校と保護者、そして地域との連携を更に図りながら取り組んでいきたいと考えております。

//////////////////////////////////// 新任 抱 負 //////////////////////////////////////

「輪 和 笑」～そして東和中

登米市立東和中学校長

牛 渡 正 哉

山紫水明の地、この東和に赴任して2ヶ月が過ぎた。時間があるときに、車で学区内を廻ってみるが、本当に美しい風景を見ることができる。この地で育つ子どもたちの原点となるのは、やはりこの環境なんだろうと思っている。

本校では代々生徒が守り続けている「三本柱」というものがある。一つは、「挨拶」いつでも、どこでも、何回でも心を込めて元気の良い挨拶を交わします。二つに、「清掃」協力・無言清掃を心がけ、きれいな仕上がりを目指します。三つ目が「集団行動」様々な場面できびきびとした集団行動を心がけています。この「三本柱」は代々生徒で語り継がれ、その様式美とも言えるスタイルに誇りさえもって先輩から後輩へとつないできた東和中の財産でもあります。この「三本柱」が軸として生徒に貫かれているところに、本校の強みがあるのではないかと思います。

さて、はじめの職員会議で話したことは「『輪和、笑』を大切に」ということでした。生徒の「三本柱」と同様、職員の「3つのわ」と考えたからです。これらはどのようにも解釈はできますが、大きなねらいは同僚性の更なる向上です。押し寄せる教育課題、社会の変化・歪みから生まれる生徒指導の課題、これから始まる若手教員の育成など。これからの学校は誰か一人の教員の力では解決できないことばかりだと考えています。ベテランの経験と知識、若手の感性や熱い思いを融合して、真の意味で連動した職員室・職員でなければ学校づくりはできないとの思いを話させていただきました。

毎朝、校門で出迎えてくれる挨拶運動の生徒たち。教室に入ると授業中にもかかわらず大きな声で挨拶する生徒たち。中総体の前日で忙しいのに、水道をきれいに磨き上げた生徒たち。試合に勝っても負けてもさわやかな笑顔で次の日登校する生徒たち。この子どもたちの未来に大きな幸せがあることを我々大人たち、教員は信念をもって日々の教育に当たらなければと自戒する毎日です。

「思い」を重ねて

気仙沼市立小泉中学校長

今 野 享 子

「田東の峯仰ぎ 不動の姿雄々しくも」小泉中学校校歌の始まりの歌詞です。着任の日、学校から見えるきらきらと輝く太平洋を背にして、2年生、3年生の生徒が歌う校歌で温かく出迎われました。校歌が始まると懐かしさを感じながら、生徒の歌う校歌に合わせて自分自身も心の中で歌い始めていました。校歌が2番、3番に進むにつれ、真っ直ぐな瞳で堂々と校歌を歌う姿に感動し、思わず涙がこみ上げてきました。こうして、私は後輩である生徒との出会いと、久しぶりの小泉中学校との再会を感動的にさせていただきました。

校舎は新しくなり、木のぬくもりを感じることができるデザインで、どの教室からも海を見ることができます。校舎の造りは自分が過ごした時とは違っていますが、どこことなく懐かしさを感じます。校舎建築の設計には地域の方が携わり、学校に対する思いがたくさん入っているように感じます。

着任してからずっと感じているのは、多くの方々からの学校への「思い」です。温かく見守っていただいたり、応援していただいたりたくさんのご期待に対する感謝の気持ちでいっぱいです。

また、これまで小泉中学校に対してご指導、ご支援いただいた多くの先輩方のお力の偉大さを感じ、生徒と教職員が互いに信頼し合い、保護者や地域の方々との一層の信頼関係を構築していかなければならないという気持ちを強くしています。

常に「生徒の思い」「保護者の思い」を受け止めていかなければならないということを大切にしていきたいと思います。そして、「職員の思い」を日々の教育実践によって、生徒や保護者に伝えたいと思います。

「太平洋 見はるかしみどりの松の影ふりて」校歌の3番はこう始まります。

今日も、教室からは太平洋がどこまでも広々と広がっているのが見えます。生徒の夢や希望もこんなふうに広がってほしいという「思い」でいます。

//////////////////// 新任 抱 負 //////////////////////////////////////

「瞳輝いて・志燃えて・心通わせて」

石巻市立山下中学校長

平 塚 隆

表題は、本校の学校目標である。正式には、それぞれの言葉のあとに「山中生」と付くのであるが、とにかくにも私はこのフレーズが大好きだ。実は、本校への赴任は2度目であり、平成19年度に、1年間だけではあったが世話になった。純朴な中にも、きちんと自分の思いや考えを人に伝えられる生徒が多く、学校全体に活気があった。

4月1日、ブラスバンド部員の心温まる演奏に聴き入りながら、久しぶりに正門をくぐってから早2か月が過ぎた。校長としての責務の重さに押しつぶされそうになりながらも、元気な生徒たち、教育活動に情熱をもって取り組んでいる教職員に支えられ、ここまで来たと感じている。

そんな私ではあるが、赴任以来、大切にしてきたことが1つある。それは、毎朝、正門に立ち登校してくる生徒を迎えることだ。震災の影響で、仮設住宅や学区外から通学してくる生徒も多いのだが、「おはようございます」と生徒の明るく元気な声と笑顔を見るだけで、幸せな気持ちになる。この子供たちのために頑張らねばと思う。また、本校の正門前には、校舎と並行する形で、貞山運河が流れており、土手沿いの遊歩道は、四季折々の草花で彩られる。朝日を受け、川面に生える草花の美しさといったら、これもまた見事なのである。朝の楽しみの一つとなっている。

昔から言われてきたことに「教育とは、感化なり。」という言葉がある。少しでもそうなれるよう努力しているつもりではあるが、まだまだ修行が足りない。学校目標についても、生徒にそれを求める前に、まずは教員が、瞳を輝かせ、志を高くもち、恕の心をもって生徒に接しようとしないう限り、具現化はできないと思っている。校長として範を示せるよう努力したい。

自分にできることを精一杯

石巻市立稲井中学校長

漢 人 真 二

稲井中学校は三方を丘陵に囲まれた自然豊かな田園地帯にあります。4月1日の着任日は快晴でした。自家用車で校門あたりに近づくと、ユニフォーム姿の生徒たちが沢山集まっている様子が目に留まりました。もしやと思いながら駐車場に着くと、生徒会長が礼儀正しく挨拶し、「ご案内します」と玄関まで先導してくれました。そこに集まった生徒たちの弾ける様な笑顔、びっくりするほど元気な声で歌ってくれた校歌、温かい歓迎の言葉、生徒の背中に書かれた「いつでも、なんでも、いっしょう懸命」の文字。これが稲井中の生徒との出会いでした。

それから2か月が過ぎました。生徒の一生懸命さに感動することばかりです。稲井中学校には2つの合言葉があります。「いつでも」「なんでも」「いっしょう懸命」。そして「あいさつ」「あきらめない」「あいてのために」の3つの「あ」です。これらは、教師はもちろん子どもたちも意識している目標です。朝、街頭指導に立つと、どの子どもも自分から「おはようございます」と元気に挨拶をしてくれます。50年近く続けている校内駅伝大会では、走るのが得意な生徒はもちろん、苦手な子でも最後まであきらめずいっしょう懸命に走ります。そして、稲井のこどもたちはとても優しいのです。このような良き伝統の背景には、それらを創ってきた一枚岩の、そして生徒のためなら労を厭わない教職員集団の存在があります。

こんな学校に赴任できて、本当に自分は幸せだと感じています。この良き伝統の上に、教職員と共に、さらに一步を積み重ねるのが私の仕事です。この子どもたちのために、そして更に良い学校にするために校長としてなすべきことは何か、それを考える毎日です。学力向上、小中連携、英語教育の充実、なすべきことは無数にあります。決して気負うことなく、前任校の校長先生から学んだ「あせらず」「あわてず」「あきらめず」の精神で、できるところから着実に一步ずつ進めていこうと考えています。志高く、逞しく未来を切り開いていける子どもたちを育てる夢は尽きません。

//////////////////// 新任 抱 負 //////////////////////////////////////

雄勝復興「輪」太鼓

石巻市立雄勝中学校校長

及 川 牧

雄勝地区は東日本大震災の津波で被災し、以前の街並みはなく、屋上を超える津波の被害を受けたために校舎もありません。震災直後に、宮城県石巻北高等学校飯野川校の4階を利用させていただき、学校が再開されました。現在も飯野川校で授業を行っています。生徒の家も被災しており、ほとんどが市内各所の仮設住宅からバスで通学してきています。生徒数も震災前と比べ1/3に減少してしまっています。

このような状況の中でも、全校生24名は和気あいあいと明るく学習や諸活動に励んでいます。そのような生徒の活動のよりどころとなっているのが「雄勝復興輪太鼓」です。雄勝には「伊達の黒船太鼓」が伝えられていたため、震災前から学校でもこの太鼓に取り組んでいました。震災後、多くの方々からの支援に対し、何かお返しをしたいという気持ちから全校生徒で太鼓に取り組むこととなりました。しかし、肝心の太鼓がありません。そこで、当時の先生方のアイデアで、タイヤに透明テープを何重にも張って太鼓をつくり、100円ショップで購入した麺棒をばちにしてできたのが「輪」太鼓です。練習にあたって、地域をはじめ多くの方々の協力がありました。そして、演奏を披露する機会が数多く設けられ、生徒たちの感謝と復興の願いを届けることができました。文字通り、太鼓を中心とした大きな輪が広がっていきました。今は、雄中生の取組を知った多くの方からいただいた和太鼓で練習に励んでいます。

さて、今年度の生徒会スローガンは「希望」となりました。このスローガンには、今までたくさんの方々にもらった希望に対し、今度は私たちがいろいろな活動を通して希望を与える側になれるようになりたいという思いが込められています。そして、新しい雄中を作るためにも先輩から受け継いだ雄勝の太鼓を未来に伝えていきたいと、生徒たちは考えています。雄勝中の生徒が、地域、ふるさとの一員として復興の一翼を担えるよう、地域と学校が連携し、今できることに精いっぱい取り組んでいきたいと思っています。

「木漏れ日の丘」からの決意

石巻市立河南東中学校校長

山 田 晴 彦

本校の校庭「木漏れ日の丘」からは、田んぼが一面に広がっているのが見えます。その眺めを見ますと、広瀬沼等の沼地を埋め立て開墾し、今日あるような農地にしてこられた先人の血のにじむような努力、そして、その壮大な夢を実現した叡智に対し、畏敬の念を抱かざるをえません。

一粒の籾から丹精をこめて成長に手を貸し、手を加え、実りに結びつけるその努力・姿勢・叡智は、教育の場で学ばなければならないことがたくさんあると考えています。

私たち教職員は、子供たちの成長と幸せのため、家庭や地域の皆さまと心をつなげて、一粒の米が出来上がるまで、八十八の手間をかけるのと同じように、努力を惜しまず学校教育に取り組んでいく所存です。

ここ2カ月で、土色の田んぼは、水が張られキラキラと輝き、さらに、田植えがなされ、緑が見えるようになってきました。そして6月、日増しに緑が濃くなっていくのが分かります。まさに、生命の息吹、成長を感じています。

河南東中学校の子どもたちも、4月にそれぞれ進級・入学し、新たな一歩を踏み出しました。たった2カ月ですが、周囲の田んぼ同様、大きな成長が感じられます。

素直で何事にも一生懸命取り組む生徒たちがさらに「自律」・「自立」できるよう全力で支援・指導していきます。

次のような3点を重点に学校づくりに取り組んでいく所存です。

- 1 安全安心な学校
- 2 生徒・教職員一人一人を大切にする学校
- 3 教職員が育つ学校

先輩校長先生方にご指導をいただきながら、職務にまい進していこうと決意を新たにしています。

//////////////////////////////////// 新任 抱 負 //////////////////////////////////////

10人目として

石巻市立河南西中学校長

櫻 井 正 昭

校長室には、初代 佐々木 治先生（残念なことに今年4月ご逝去されました）をはじめ、9名の校長先生方の顔写真が掲げられています。お一人お一人の表情には、学校経営の重責を担ってきた「威厳」「風格」「誇り」が感じられ、私は心の中で「一礼」した後に執務を始めるのが毎朝の日課となっています。写真は自席の背面の壁にあるため、私は常に、頭上から「二十四の瞳」ならぬ「十八の瞳」に見つめられているのです。

本校は、平成元年、旧河南町の三つの中学校が統合し創立しました。統合にあたって幾多の困難もありましたが、以来四半世紀、保護者・地域の皆様のご尽力とご支援をいただき、校長先生方のリーダーシップのもと、教師・生徒が一体となって、輝かしい伝統を築きあげてきました。現在、豊かな自然環境、恵まれた施設のなかで、212名の生徒たちは明るく伸び伸びと学校生活を送っています。

今年度、「自主的に考え進んで学び行動する生徒」、「節度をもって自律的に生活することができる生徒」の育成を目指しております。その実現に向けてのキーワードは「組織力の向上」。私の学校経営の「柱」でもあります。教職員の個々の良さを生かし、さらにそれを伸ばしながら、組織として課題解決に向かう姿こそ、あるべき学校の姿であると私は考えています。

「校長は孤独な指揮官」。ある先輩校長先生の言葉です。最後は誰に頼ることもできず、自分の信念によって正しい決断をしなければならない。校長としての職務の厳しさを、象徴的に表した重みのある言葉であるにとらえています。

先人たちの作りあげてきた伝統や功績を、私の代になって汚してはならない。歴代の校長先生方が心砕いてきた学校経営の思いを大切にしながら、自分自身の経営を進めていきたい。背後の校長先生方の厳しくも温かいまなざしに「叱咤激励」を感じながら、私は10人目の校長として、自分を厳しく律し、誠実に職務を果たしてまいりたいと思う毎日です。

生徒がいる幸せ

石巻市立桃生中学校長

阿 部 光 男

4月1日、私は他の異動者より少し遅れて着任しました。駐車場から校舎までの道のりで、一人の生徒があいさつをしてくれました。また、翌2日には、初任者とともに石巻市の着任式を終えて学校に着いた私たちを、部活動で登校していた生徒たちが迎えてくれました。どの生徒も輝いた目で、「ようこそ桃生中学校へ」という気持ちを表現していました。さらに、数人の生徒は出迎え終了後私に話しかけてくれて、私は幸せな気持ちでいっぱいになりました。

私は2年間、児童生徒のいない職場に勤務していました。その職場における私の担当業務は、主に教職員を対象としたもので、「最終的にはみやぎの子どもたちのためになる」という思いで職務に専念してきましたが、どこか寂しい気持ちで日々を過ごしてきました。生徒が目の前にいて、生徒の声が聞こえ、毎日生徒の活動のようすを目にしながらい生徒とともに自分も成長するという、教師本来の幸せを改めて感じています。

桃生中学校の生徒たちは明るく純粋で、学習や部活動に一生懸命取り組んでいます。学習面ではもうひと頑張りが必要ですが、落ち着いた学校生活を送っており、過日行われた石巻地区中学校総合体育大会では、好成績を収めました。また、教職員も熱意にあふれ、時間を惜しまず生徒たちのために力を尽くしています。さらに、保護者や地域の方々も大変協力的で、学校に対してさまざま支援の手を差し伸べてくださっていますし、まだまだ被災地支援も続いています。

私はこのような素晴らしい学校に、校長として勤務できる幸せに感謝しながら、生徒たちや教職員のために、自分のできることを精一杯行っていくと考えています。今は、「あいさつ日本一」を目指す桃生中学校の一員として、朝は生徒たちやPTAの方々とともに、校門で「おはようございます」と登校してくる生徒に声をかけ、帰りは「さようなら」と下校する生徒に声をかけています。これからは、さらに自分には何ができるかを考えて、実践していきたいと考えています。

//////////////////// 新任 抱 負 //////////////////////

学校から元気を

女川町立女川中学校長

浅 川 光 喜

山並みも 海も輝く 日本晴れ

希望感じる 女川初日

4月1日赴任日、自宅から県庁での辞令交付式、女川町へと車を走らせるなかで、そんな想いを巡らせて向かいました。そして、緊張しながら着任のあいさつ、遠慮がちに校長室のいすに初めて座り、新任校長としての勤務が始まりました。

女川中学校は、一昨年女川第一中学校と女川第二中学校が統合し、今年開校2年目の学校です。まるこ山という高台に校舎があり、今盛んに復興・再生に向けて行われている造成工事の音が聞こえ、日に日にかさ上げされていく様子がよく見渡すことができます。廊下や「ありがとう展示室」には、震災後に多くの方々から寄せられた励ましの品々や支援に来られた有名人の写真などが所狭しと飾られています。

大震災から4年目を迎えますが、約半数の生徒が仮設住宅等から、約15%の生徒が女川町外から、また、約8割の生徒がスクールバスで通学しており、就学援助を受けている世帯も非常に高い割合であり、厳しい環境の下で生活しています。しかし、生徒は浜の子らしく明るく素直で元気です。昨年は女子バスケットボール部の全国大会出場や、いのちの石碑プロジェクトなど、女川中生徒の活躍が地域住民を勇気づけました。

町では、平成30年4月に小中一貫校の開校を目指しています。復興から再生に向けた女川町の教育のために微力ながら、全力を尽くす覚悟です。子どもたちを勇気づけ、自己肯定感を高め、楽しい学びの場を創っていきたいと考えます。職員の英知を結集して課題を解決し、「まるこ山から女川の元気を」を合言葉に、地域の人たちに元気を発信していきたいと思ひます。

宮城県中学校長会のホームページについて

サーバーの移転に伴いホームページのデザインを刷新する予定です。これまでのサイトタイトル画像を継承し、左側にサイドバーを配置した2コラムレイアウトを採用しました。このデザイン変更でこれまでよりも見やすく、各ページへのアクセスビリティに富むホームページになったのではと思います。また、リンクページを設けることで、各都道府県の中学校長会の動向など情報収集が容易になりましたのでご活用ください。

今後新しいホームページの運用が可能と思ひますので、ご期待ください。発信・提言・行動する校長会という理念を大切に、より一層タイムリーな情報発信を心がけて行きたいと考えています。



平成26年度

宮城県中学校長会事務局

〒981-1224

名取市増田字柳田 230

名取市立増田中学校内

TEL : 022-384-8062

FAX : 022-384-8063

E-mail : miyagi-koc yokai@wine.plala.or.jp

郵便振替 2240-1-41664

事務局員：佐々木 美代子
根本 恭子